

2017年度は、投資型クラウドファンディングのプラットフォーム「Sony Bank GATE」の運営を国内銀行として初めて開始するなど、ユニークな商品・サービスを創り出し、お客さまへの新しい価値提供に取り組みました。



■2017年度の経済環境と業績

2017年度の日本経済は、米国や欧州を中心とした世界経済の回復を追い風に企業収益が改善したほか、個人消費が持ち直したことから、緩やかな回復基調となりました。金融市場においては、日本銀行による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」のもと、長期金利は指標となる10年物国債利回り0%程度という金融市場調節方針に沿って、引き続き低水準で推移しました。

■ソニー銀行の業績

このような経済環境の下、2017年度末の貸出金残高は前年度末比567億円増加の1兆5,963億円となりました。預金残高は、11通貨に対応するVisaデビット付きキャッシュカード『Sony Bank WALLET(ソニーバンク・ウォレット)』をきっかけに口座を開設するお客さまも増え、円、外貨ともに増加し、同1,063億円増加の2兆2,193億円となりました。このうち外貨預金残高は、定期預金の金利訴求効果もあり、4,046億円となり、過去最高額を更新いたしました。

業績面については、低金利環境が続くなか住宅ローン残高の積み上がりにもともなう貸出金利息の増加などにより、連結経常収益は前年度比14億円増加の399億円となりました。連結経常利益は、適切な経費コントロールなどにより、同21億円増加の71億円となりました。

■インターネットのその先へ

当社は、自分らしく生きようとするお客さまのために、“ためる、ふやす、つかう”を最新のテクノロジーで、最適な提案をする銀行になることを目指して、住宅ローン、外貨預金、投資信託など、お客さまのお金の問題を解決するための様々な商品・サービスの強化に取り組んでおります。また、より多くのお客さまへ、当社の商品・サービスをご利用いただけるよう、他社とのアライアンスやインターネット専門銀行としての利便性強化に向けた新しいテクノロジーの導入を進めております。

商品・サービス面では、2017年8月、個人のお客さまへ新しい資産運用の選択肢を提供するため、新規事業に挑戦する企業とそれに共感・応援したい個人を結ぶ場として、投資型クラウドファンディングのプラットフォーム「Sony Bank GATE(ソニーバンク・ゲート)」の運営を国内銀行と

して初めて開始いたしました。また、10月には株式会社高島屋(以下、高島屋)、高島屋クレジット株式会社と提携し、高島屋のご優待サービスと「Sony Bank WALLET」が一体となった「タカシマヤプラチナデビットカード」の発行を開始いたしました。

利便性の観点では、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所が蓄積してきた知見や人工知能(AI)の一分野を金融に用いて開発した資産形成シミュレーションツール「ほしいものナビBeta」の提供を2017年4月に開始いたしました。また、12月からはウェルスナビ株式会社と提携し、ロボアドバイザーによる自動資産運用サービス「WealthNavi for ソニー銀行」も開始しました。このほか2018年5月には住宅ローン審査にAI導入を実現するなど、新たなテクノロジーを活用してより良いサービスの提供に一層努めてまいります。

一方、対面サービスの強化にも取り組んでまいりました。2017年4月には、当社の銀行代理業者であるソニー生命保険株式会社のライフプランナーによる取扱商品を拡充いたしました。さらに9月には対面で住宅ローンのご相談を承る住宅ローンプラザを銀座へ移転し、資産運用に関する情報提供などサービス内容を拡充して「CONSULTING PLAZA(コンサルティングプラザ)」として新たにオープンするなど、より幅広いお客さまのご要望にお応えしています。

ソニー銀行は、持続的成長と将来の競争優位性確保に向け、ソニーグループならではの最新技術をもってユニークな商品・サービスを創り出し、お客さまへ新しい価値を提供できるようこれからも取り組んでまいります。今後ともよろしく願いいたします。

ソニー銀行株式会社
代表取締役社長

佐野雄一郎